

岩手県支部 委員会・研究会 活動報告

活動名	2014年新春講演会 世界に誇る三陸地域遺産の魅力 (CPD 番号 25-13)
主催	公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部
日時	平成26年2月1日(土) 14:00~16:30
場所	エスポワールいわて 2F大ホール(盛岡市中央通1-1-38)
参加人数等	100人

活動内容

1. 講演会の概要

1) 三陸ジオパークについて

(講師 岩手県立博物館 学芸部長 大石雅之 氏)

青森・岩手・宮城の3県にわたる三陸海岸の三陸ジオパークについて、日常的な時空スケールとかけ離れた5億年という長大な時間の中での環境や時代を知ることができた。また、三陸地域では陸と海の生態系が育まれ、それをもとに文化や産業、人々の暮らしが成り立っていることが再認識できた。

2) 世界遺産の候補「橋野高炉」の意義

ー岩手、日本、そして世界史の中でー

(講師：岩手大学工学部機械システム工学科
准教授 小野寺英輝 氏)

世界遺産登録を目指している「明治日本の産業革命遺産九州・山口と関連地域」の構成資産の一つである釜石の橋野鉦山(橋野高炉跡及び関連遺跡)について、「世界遺産とは」・「橋野鉦山の沿革」・「洋式高炉跡」等大変分かりやすい説明であった。産業革命遺産は日本が西欧以外で唯一自力で近代化を達成した証であること、一時期は日本最大の製鉄所であったこと、現存する日本最古の洋式高炉跡であるなど大変興味深い内容であり、見識を深めることができた。

2. 感想

「三陸ジオパーク」、「橋野高炉」などの地域資源は、三陸地域の人々が震災から復興していく上で、まちづくりの振興や防災に対する危機意識の高まりなどに期待できるものであり、将来に夢や希望を持てる重要な存在であると感じた。

〈永田裕一記〉



会長のご挨拶、会場の様子



講演する大石先生



講演する小野寺先生